

年で行われる必要がある。

適応型と進路指導

適応型には、どの方向へ進んでも、そこで意欲を持ち、誇りを持って努力する気持や自信を、すでに進学

前から持たせる指導が絶対に必要である。逆に言うならば、その姿勢をとり得る生徒にだけ、この進み方を許すことができると思うのである。

(中野)

2. 文科型・理科型の適性について

高等学校における進路指導の際、多くは外的条件により、進路の決定がなされている。しかし、生徒の適性が、本当に進路と合っているか、いないか、かなり問題になってくる。そこで、適性に対する色々な要因は、あると思われるが、生徒自身が自分の適性をどのように考えているのか、又、それが、どんな条件でなされるのか、特に、内的条件はどのように作用するのかを究明したいと思い、授業科目と思考の仕方と適性がどの様に関連するかを調査してみました。

1. あなたは次の科目のうち得意、不得意に関係なくどの科目に興味がありますか、四つ以内○でかきなさい。

- 現国 古典 日本史 世界史 地理 倫社・政経
- 英語 数学 物理 化学 生物 地学 芸術 体育
- 容庭

2. あなたは次の科目のうちで、得意なものを四つ以内○でかきなさい。特に得意なものは◎でかきなさい。

- 現国 古典 日本史 世界史 地理 倫社・政経
- 英語 数学 物理 化学 生物 地学 芸術 体育
- 家庭

3. (1) あなたは問題を考える時、次のどちらになりますか。○をつけなさい。

- (イ) わからなくなってもいつまでも考える。
- (ロ) わからなくなったらすぐ次にうつる。
- (ハ) その他

(2) 一つの問題を考える時、次のどちらになりますか。○をつけなさい。

- (イ) 一つの方法で解けるまでがんばる。
- (ロ) 色々な方法で解いてみる。

4. あなたの性格は次のどれに入りますか。○をつけなさい。

- (イ) 内向的 (ロ) 外向的 (ハ) どちらでもない

5. あなたは次のどれに適していますか。

- (イ) 文科系的なもの (ロ) 理科系的なもの
- (ハ) どちらでもない

この調査の結果は次の表のようになりました。

表 1

2 年 (141名)

5.

文	57
---	----

1.2.

文	理	文理	理文	どちらでもない	その他
39	1	0	3	9	5

3.

	イ	ロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ
	5	6	17	22	3	4
イ	3	2	6	10	3	2
ロ	1	1	4	4	0	1
ハ	1	3	7	8	0	1

理

38

文	理	文理	理文	どちらでもない	その他
2	17	1	1	7	10

	イ	ロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ
	2	11	6	13	0	5
イ	1	6	5	6	0	3
ロ	0	2	1	2	0	0
ハ	1	3	0	5	0	2

どちらでもない
46

文	理	文理	理文	どちらでもない	その他
9	3	0	0	21	13

D. 継続的計画的な進路指導についての研究

	イイ	イロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ
	4	3	9	11	0	4
イ	1	1	4	2	0	2
ロ	1	0	2	5	0	0
ハ	2	2	3	4	0	2

表 2

3 年 (名)

5. 文 43

1.2.

文	理	文	理	どちらでもない	その他
27	1	2	0	5	8

3.

	イイ	イロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ
	1	5	3	21	1	8
イ	0	3	1	7	0	1
ロ	1	1	0	7	0	2
ハ	0	1	2	7	1	5

不明 4

理 28

文	理	文	理	どちらでもない	その他
1	16	0	4	4	3

	イイ	イロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ
	5	12	4	3	3	1
イ	2	5	2	1	1	0
ロ	2	3	0	1	0	1
ハ	1	4	2	1	2	0

どちらでもない 31

文	理	文	理	どちらでもない	その他
27	10	0	2	2	15

	イイ	イロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ
	4	3	3	11	1	5
イ	1	1	0	4	0	2
ロ	1	1	1	1	1	1

ハ	2	1	2	6	0	4
---	---	---	---	---	---	---

不明 4

表 3

1 年 (名)

5. 文 23

1.2.

文	理	文	理	どちらでもない	その他
15	0	1	0	0	7

3.

	イイ	イロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ	Y・G
	1	2	1	11	1	5	
イ	0	2	0	5	0	0	11
ロ	1	0	0	2	0	1	7
ハ	0	0	1	4	1	4	5

理 14

文	理	文	理	どちらでもない	その他
2	9	0	0	2	1

	イイ	イロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ	Y・G
	2	5	2	3	0	1	
イ	1	3	1	1	0	0	1
ロ	0	1	0	1	0	1	9
ハ	1	1	1	1	0	0	4

不明 1

どちらでもない 14

文	理	文	理	どちらでもない	その他
7	0	1	2	1	3

	イイ	イロ	ロイ	ロロ	ハイ	ハロ	Y・G
	1	1	2	8	0	1	
イ	0	0	1	3	0	0	4
ロ	1	0	0	1	0	0	7
ハ	0	1	1	4	0	1	3

〔表の見方〕

最初に、調査の5により、文科系的なもの、理科系的なもの、どちらでもないもの、のそれぞれに分類した。以下、例えば、表1（2年生）の「文科系的な者に適するとした者、57名で、そのうち、「文文」の39名は、調査の1、2で文科系の科目に○印をつけた者〔注1、2の各々で、文、理の両方に○印をつけた者については、○印の多い方にいれ、同数の場合はどちらでもない者にいれる。〕

次に、その下の表は上の57名について、調査の3の(1)、(2)の両方ともイに○印をつけた者（イ、ロ）は(1)の方がイで、(2)の方がロに○印をつけた者の人数である。その下の図は3による分類の各々を調査の4のイロハについて分類したものである。

この調査により、生徒の適性は、授業科目の興味と得意、不得意によって、かなり決められており、自己の性格を文科系的な者は、内向的、理科系的な者は外

向的と考えているようである。従って、無作意に抽出した3年生の51名に対する表3において、Y・Gテスト（性格検査）の思想的内向性、外向性と社会的内向性、外向性により、調査すると、Y・Gによると外向性であるが、自己は内向性であると思う者が多い。これは、3年生の現在の状態又は校風によるものであるかもしれないが、やはり、文科系的な者に対しては、内向性の者が多く、理科系的な者は外向性が多い。従って、問題を解く場合においても、表により、文科系的な者は、思考時間が短かく、単一的であるのに反して、理科系的な者は思考時間が長く、多模的であるのではないかと考えられます。

今後、この思想的内、外向性、社会的内、外向性及び、授業科目の興味、得意、不得意、と思考時間、性質がどんな要因によって形成され、又どの様に変化し、文科系的な者、理科系的な者に、分かれる要因を調査したいと思います。

（富田）

3. 進路指導と適性について

1. 進路と適性

大学への進学にあたっては自分の適性をよく考慮せよということがしばしばいわれる。この適性というものが何を意味するのか必ずしも明確ではないが、まず常識的に考えて、大学教育を受けるにふさわしい性格的特性、学力といったものが中心をなすと考えられよう。それに附随的なものとして身体的条件も挙げられる。しかし現実にはさまざまな条件をかかえた進学希望者が、その進路を決めるにあたり、適性をどこまで考慮しているか、またどの程度迄考慮し得るものなのかはなほ疑問である。ここで今の進学希望者の標準的な志望校決定の現状を眺めて、そこに適性というものがどのような形で考慮されているか考えてみたい。

2. 希望校・学部の決定の現状

大部分の生徒は、特に都会地の普通課程の場合、すでに入学時から漠然としたものではあっても進学のことを考えている。しかし自分の志望する学部系統がある程度具体的に定まってくるのは第2学年になってからである。学校によってはこの学年から文科・理科の別コースに分けたカリキュラムをしく関係上、いやおうなしに決定をせまられることにもなる。そしてこの時期における希望決定は生徒みずからの興味関心の

有無強弱によって左右されているのが現状である。興味関心というものが適性と密接な関係を持つことはいうまでもない。むしろ関心のまったくないところには適性はまずないといってもさしつかえなからう。しかし興味がそのまま適性につながるとは必ずしもいえないのである。

一部少数の者ではあるが、家の職業を継がねばならぬ者などに、適性の有無にかかわらず学部が決定せられる場合がある。また特にある方面をやりたいといった積極的な意欲はなく、ただ何となく周円のあるいは社会的な風潮にのせられて、どこへでもよいから進学したいといったような者もある。後者の場合、学部決定ははるかにおくれるか、または最後まで決めずにいて入りそうなところだけをねらうかするのが普通である。

希望校をきめる最も大きな手がかりは学力である。特に第3学年においては実力テスト模擬テストなどひんぱんにくり返され、いや応なしに自分の学力に注目させられる。学力も適性の一部と考えられるが、これに関する限り、そのデータは詳細にわたって吟味され、最もゆきとどいた指導がなされるのが普通である。しかしここに一步その運用を誤ると大きな問題をはらむことになる。学力という適性を重視するあまり他の性格的特性を無視し、時には本人の意志に反して